

光栄の森

2020年6月 毎月1日発行 第142号
発行者 光栄プロテック 中川

6月に向けて

代表取締役 三田雅憲

暑さが本格的になりましたが、皆様はいかがお過ごしですか。コロナウイルスの世界的な影響で日本国内はもとより、世界中が経済的なダメージを受けています。あのトヨタでさえ営業利益を対前年80%も落としておりますし、アパレル大手のレナウンの倒産などが続き、産業界への影響は計り知れないと感じます。当社も当面の資金確保にメイン銀行と折衝をしております。社員皆さまにお願いしたいことは、より一層の生産性（技術力）向上と時間や材料を含む儉約の徹底です。そこで、今月は京都の思想家で元商人であった石田梅岩（1685～1744）からの言葉から共に学びたいと思います。

石田梅岩が重視する考え方の一つは「儉約」と「勤勉」です。梅岩の言う儉約は、何でもケチにお金を使わないという意味ではありません。「従来は3つだったものを無駄を排除して2つで済ませられるようにすること」であると言います。無駄なものを気付くことはもちろんですが、やり方を変えたり、新しい仕組みを作ることによって数を減らすようにします。こうして3つ使うものが2つに抑えられて余ったもの（時間・お金）をいざという時のためにとっておくのです。

次に勤勉についてですが、最近の人の中には一生懸命頑張ることについて自分を苦しめるようなこととして嫌う傾向があるようです。

しかし、梅岩の「勤勉」というのはそのイメージとは逆の意味を持っています。梅岩は一生懸命努力すれば気持ちの「安心」が得られると説いています。安心できる理由は、働くことで周囲から感謝され、周囲とのつながりを感じ、自分も嬉しくなるためです。そして仕事を熱心にすれば、心を磨き礼儀礼節（人の行動を律し相手に敬意を表す作法）を備えた一人前の人間として成長することができます。梅岩の考え方の根底には、人と共同体（地域コミュニティー・会社・組織・家庭など）のつながりを大切にしている視点があります。人は一人ぼっちでは「幸福感」や「充実感」を感じることができません。衣食住が満たされるのみでは心が満たされません。人の努力や勤勉に努めることで心の豊かさを手にしていきます。金銭や物品などの有形の価値と異なり経験や認識などの無形の価値は、人の記憶に生きるもので無くなることはありません。このような見えない価値で自分を満たしていくことは、物が満たされた現代においてむしろ大きな意義があります。本当の価値は、仕事を通して自分だけでなく家族も会社もそして、社会全体も豊かに幸せにすることだと石田梅岩は述べています。

合理的、自己中心的だけの物の見方から「儉約」と「勤勉」そして石田梅岩の唱える「人と共同体のつながり」を大切にすることでコロナ終息後の私たちの生き方やビジネスの仕方に学ぶものがあるのではないかと。少し硬い内容でしたが少しずつでも参考になれば幸いです。